

序論)

みなさんは、日本の総理大臣に韓国人がなったらどう思われるでしょうか。もしくは、中国の人が日本の総理大臣になったり、ロシアのプーチン大統領が日本の総理大臣になったりしたらどう思われるでしょうか。

「そんな事はありませんし、あってはならないことだ！」とそう思われるのではないのでしょうか。当たり前ですよ。日本の総理大臣には日本人になるべきだし、実際、法律に総理大臣を含む国会議員は日本国民でなければいけないことが定められています。

なんで、私がこんなことをいったかということ、今日の箇所は、イスラエル人やユダヤ人にとって、そのあってはならないことを神様が預言されている箇所だからです。

1) キュロスに油注がれた者と呼ばれる【主】

先週の 44 章に引き続いて、今日の箇所でもペルシャの王キュロスのことが預言されています。1 節を読んでみましょう。

45:1 【主】は、油注がれた者キュロスについてこう言われる。「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。

ここには驚くべきことが言われています。それはなにかということ、【主】なる神様がペルシャの王キュロスのことを「油注がれた者」と言われていることです。

みなさん、この「油注がれた者」というのはメシアであり、キリストのことです。当然、これはイエス様のことを指しているわけではないのですが、旧約聖書において「油注がれた者」というのは、例えば王様であったり、預言者だったり、祭司であったりする人のことで、そういった神様に特別に選ばれて任命された人のことを「油注がれた者」と聖書は言っています。

当然これはイスラエル人にとっては異国の人ではなくって同じイスラエル人じゃなければいけないし、そのイスラエル人の中でも特別に神様に選ばれたスペシャルな存在でなければ、「油注がれた者」などという称号は与えられてはいけません。

にもかかわらず神様は異国の王様、しかも、まことの神様のことを知らない王様

であるキュロスのことを「油注がれ者」といわれ、そのキュロスのために神様ご自身が彼の右の手をとり、諸国を支配下に置かせ、諸国の王たちの力をなくさせ、彼が攻め取る町の門を開かせる。と言われているのです。

つまり、神様が異国の王であるキュロスに特別に目をかけて、特別な勝利のための導きをなされ、さらには3節をみるとその占領国の隠された財宝さえも、キュロスに与えると言われているのです。

これは自分たちこそ選びの民だと思っていたイスラエル人にとっては到底納得ができないことです。

なぜ、神様はこのようにキュロスに特別に目をかけ、「油注がれた者」という特別な称号さえも与えられたのでしょうか。それは3つの理由のためでした。

① キュロスが【主】を知るため

一つは、ペルシャの王キュロス自身が【主】を知るためです。3節を読んでみましょう。

45:3 わたしは秘められている財宝と、ひそかなところに隠された宝をあなたに与える。それは、わたしが【主】であり、あなたの名を呼ぶ者、イスラエルの神であることをあなたが知るためだ。

神の民でなく、ゾロアスター教の信仰をもつ偶像礼拝を、神様が選び出して油注がれた者としたのは、キュロス自身が、まことの神様である【主】のことを知るためでした。

実際、キュロスにとってユダヤ人たちを解放するという事は、益になることが殆どありません。にもかかわらずキュロスはユダヤ人たちを解放しました。なぜでしょうか。キュロスが諸国に勝利し、バビロンに勝利することによって真の神様を感じたからです。第二歴代誌 36 章 22 節、23 節を読みたいと思います。

第二歴代誌

36:22 ペルシアの王キュロスの第一年に、エレミヤによって告げられた【主】のことばが成就するために、【主】はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。王は王国中に通達を出し、また文書にもした。

36:23 「ペルシアの王キュロスは言う。『天の神、【主】は、地のすべての王国を私にお与えくださった。この方が、ユダにあるエルサレムに、ご自分のために宮を建てるよう私を任命された。あなたがた、だれでも主の民に属する者には、その神、

【主】がともにいてくださるように。その者は上って行くようにせよ。』

22節に『【主】はペルシアの王キュロスの霊を奮い立たせた。』と書いてますね。神様は間違いなくキュロス王の中に働かれたのです。

そして、23節では、キュロスが『天の神、【主】は、地のすべての王国を私にお与えくださった。』と書いています。ここでいう【主】はイスラエルの神をしめすYHWHが使われています。つまり、『諸国を占領し大ペルシャ帝国を作ることができたのは、イスラエルの神である【主】なる神様が自分に諸国を与えてくださったからだ。』とキュロスは言っているのです。キュロスはイザヤの預言の通りに、諸国に勝利をしたことによって、ユダヤ人を解放し、エルサレム神殿を再建させようとしておられるイスラエルの神、【主】を知ったのです。

神様は、異邦の民、偶像礼拝者にも働かれて、その人たちが【主】を知ることができるようにしてくださるお方です。

② 人々が【主】を知るため

もう一つ、神様がキュロスに油を注がれた理由があります。それはイスラエルやキュロスだけじゃなくって、他の人たちも神は、唯一絶対の【主】なる神様しかいない。ということを知らせるためです。5節、6節を読みたいと思います。

45:5 わたしが【主】である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに力を帯びさせる。

45:6 それは、日の昇る方からも西からも、わたしのほかには、だれもいないことを、人々が知るためだ。わたしが【主】である。ほかにはいない。

本来、【主】だけがまことの神様であり、他に神がないというのは、キュロスじゃなくってイスラエル人たちが世界に示さなければいけないことでした。でも、ご存知の通り、彼らは偶像礼拝をし、【主】に逆らい、【主】の栄光を表しませんでした。だから、神様はまことの神様をしらないキュロスに力を与え、キュロスを通して世界中に、イスラエルの神、【主】以外には、神はいない。ということを示されたのです。

みなさん、これは私達じゃなかったとしても、まことの神様をしらない人たちを通してでも、神様は、唯一絶対の神としての栄光をこの世に現すことがおできになることを示しています。

これはもしかしたら、イスラエル人やユダヤ人たちにたちに対する皮肉なのかもしれません。彼らは自分たちこそが【主】の民であり、自分たちこそが【主】の栄光を現すものだと、そう思っていました。でも、実際は【主】に逆らって【主】の栄光を現さなかった。だから、神様は、【主】をしらないキュロスを使って、ご自分こそがまことの神であることを示されたのです。

【主】に選ばれたから、【主】に救われたからといって、自分たちだけが【主】の栄光を現せるなんて、思い上がってはいけないのです。

みなさん、【主】は。仮にみなさんが【主】の栄光を現さなかったとしても、この世の人たち、【主】のことを知らない人たちを通して、ご自分こそがまことの神であることを示すことができるお方なのです。

だから、私達は思い上がってはいけないのです。寧ろ、主権者なる神様の前に徹底的にへりくだることが大切なのです。

③ イスラエルのため

そして、神様がキュロスに「油を注がれた者」という肩書を与えられた理由の3つ目は、イスラエルのため、ヤコブのためでした。4節を読みましょう。

45:4 わたしのしもべヤコブのため、わたしが選んだイスラエルのために、わたしはあなたを、あなたの名で呼ぶ。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書きを与える。

前回もいいましたが、神様はイスラエルを見捨ててはおられなかったのです。

【主】はご自分が選んだ民が罪を犯し、苦しみの中を歩むことがあったとしても、決して見捨てずに、やがて必ず救い出してくださるのです。キュロスはそのために油を注がれました。

だから、私達はどんな絶望の中にあっても【主】にあって希望を持ち続けることができます。【主】はご自分の民のために、異邦人さえも用いて必ず助けの手を差し伸べてくださいます。

2) 創造主であり、正義の【主】

神様はこのようにキュロスを選んだ理由を教えてくださいました後、改めてご自分がどのような存在かを宣言されています。それが7節、8節です。

45:7 わたしは光を造り出し、闇を創造し、平和をつくり、わざわざを創造する。

わたしは【主】、これらすべてを行う者。

45:8 天よ、上から滴らせよ。雲よ、義を降らせよ。地よ、開け。天地が救いを実らせるように。正義とともに芽生えさせよ。わたしは【主】。わたしがこれを創造した。」

7節の「わたしは光を造り出し、闇を創造し、平和をつくり、わざわいを創造する。」というこの言い回しに少し引っかかりを覚える方がいるかもしれません。これはペルシャの王キュロスがゾロアスター教の信仰を持っていたからこのような言い方になっています。

つまり、どうゆうことかという、ゾロアスター教は二元論的な考え方を持っています。世の中には光と闇があり、善と悪があり、黒と白がある。そして、神も善の神と悪の神があり、光の神と闇の神がある。そう考えていたのです。

でも神様は、「わたしは光を造り出し、闇を創造し、平和をつくり、わざわいを創造する」といわれ、「あなた達が別々に考えている光と闇、平和とわざわい、それらは全部、神様がお造りになったものであり、あなた達が神として崇めているのも全部神様の被造物に過ぎないのだ」と、そう教えておられるのです。

そして、その創造主なる神様こそが、本当の正義をもたらし、救いを持たらず【主】なのだ。といことを8節で言われています。

みなさん、この世には色々なものを神とする宗教がいっぱいあります。けれども、それらは神様の被造物でしかないのです。神様がお造りになったものを人々は神として拝んでいます。しかし、本当に私達に救いを与え、正義を与えてくださる神様は創造主なる神様しかいません。別の言い方をすると、この世界の創造主でなければ私達を救えないのです。

みなさんは救いを求めておられるでしょうか。そして、正義を求めておられるでしょうか。そうであるのならば、この世界をお造りになった創造主なる神様に救いを、そして正義を求めましょう。

3) 抗議する者へメッセージ

そして、最後、神様は9節以降、神様に抗議する者へのメッセージを残されています。9節、10節を読みましょう。

45:9 ああ、自分を形造った方に抗議する者よ。陶器は土の器の一つにすぎないのに、粘土が自分を形造る者に言うだろうか。「何を作るのか」とか「あなたが作っ

た物には手がついていない」と。

45:10 わざわいだ。自分の父に「なぜ子を生むのか」と言い、母に「なぜ産みの苦しみをするのか」と言う者。

作られたものは作った相手にたいして文句をいいませんよね。私はこのメッセージをするに当たって、この説教原稿を作りましたけども、この説教原稿自身が私に向って、「この説教は不十分だ」とか、「例え話が足りない」とか、そうゆうことを言ったりはしません。また、婦人の方々はお昼の食事を作ってくださいたりしますが、その作られたうどんとかが、「麺のゆでる時間が長すぎる」とか「短すぎる」とかそうゆうことをいいませんよね。

でも、私達、人は、創造主なる神様に向って文句をいってしまうのです。【主】がキュロスのことを「油注がれた者」と言った時、それに対して文句をいったユダヤ人もいたのではないのでしょうか。それはお門違いなことであり、越権行為です。

本来、私達は神様に対してそんな文句をいう資格も権利もありません。でも、文句をいってしまうのが私達なのではないのでしょうか。

【主】はそのように自分の立場もわきまえずに文句を言う者のことを「わざわいだ」といわれ、嘆かれています。

みなさん、みなさんは神様がご自分の主権の中で決めたことに対して、つぶやいたり、文句をいったりしていないのでしょうか。【主】は言われます 1 2 節

45:12 このわたしが地を造り、その上に人間を創造した。このわたしが手で天を延べ広げ、その万象に命じたのだ。

私達を含め、この世界をお造りになったのは創造主なる神様です。この世界は神様の思う通りに造られる存在なのです。そして、その創造主なる神様は言われます。 1 3 節

45:13 このわたしが義をもって彼を奮い立たせ、彼の道をことごとく平らにする。彼がわたしの都を建て直し、わたしの捕囚の民を解放する。代価を払ってでもなく、賄賂によってでもない。——万軍の【主】は言われる。」

つまり、どうゆうことですか？ イスラエル人にとってキュロスが「油注がれた者」といわれるのは、納得がいかないことかもしれません。でも、神様が、キュロスを奮い立たせ、彼の道を整えて、彼が進みやすくされたのは、エルサレムの都を

再建し、イスラエルを解放して救い出すためなのです。

それはイスラエルがキュロス王に対して解放のための代価を払ったり、賄賂を送ったりしたからではなく、【主】なる神様が・・・・。

この世界をご支配しておられる万軍の【主】なる神様が、その唯一の神としての主権によって、定め、実行されたからなのです。

だから、私達は、例え神様のなさりように対して納得できなかったとしても、理解できなかったとしても、この世界をお造りになり、まことの正義と救いを与えてくださる神様を信じて、へりくだって神様の御業を受け入れていくことが大切なのです。

まとめ)

【主】はキュロス王に、世界に、そして、私達に【主】の栄光を知らせてくださるお方です。このお方によるのならば、例え、まことの神様を知らない者であったとしても、油を注ぎ、私達を救うために用いることがおできになるのです。

だから、唯一絶対の神、この世界の主権をもっておられる神様を信じ、つぶやかず、文句を言わずに、【主】の救いと正義を信じましょう。

それこそが、神の民の信仰の持ち方だと思います。